

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	下顎頭骨折における観血的整復固定術後の顔面神経麻痺の発生率とリスク因子
所属科*	歯科口腔外科
研究責任者*	簗原雅人
研究実施期間	開始 西暦 2025 年 1 月 1 日 ~ 終了 西暦 2030 年 3 月 31 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	下顎骨骨折 (20 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2017 年 4 月 1 日 ~ 至 西暦 2025 年 12 月 31 日
研究概要*	下顎骨骨折は顎顔面骨折の中で、最も機能障害が高度となる外傷の一つである。下顎頭骨折や関節突起骨折(mandibular condyle fracture : MCF)に対する外科的療法(open reduction and internal fixation : ORIF)は、術後合併症の一つとして顔面神経麻痺が出現することがある。 顔面神経麻痺の出現は、患者に身体的、精神的苦痛を与えることから、可及的にその出現を避けるべきである。顔面神経麻痺の出現に関して、様々なリスク因子が存在する事が報告されているが十分ではない。そこで、本研究では当院で実施された MCF に対する ORIF を実施した症例の既存情報を収集し統計的解析を行い、顔面神経麻痺の様々なリスク因子とその関係について多面的な検討を実施する。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	本研究は研究対象者がこれまでに受けた診療録や検査の内容、手術資料を使った研究であり、対象者の安全が脅かされる懸念はない。個人情報についてはデータの連結不可能匿名化を行うことにより情報の漏洩を予防することが可能であると思われる。他施設と共同して学会や論文などで研究結果を公表する場合があるが、この際にも個人を特定できる情報を明らかにすることはない。
研究の問い合わせ先*	簗原雅人 所属：大阪労災病院 歯科口腔外科 職名：医員

別紙第 2 号様式

	耐性無しの症例でも、4.31 から 3.92 と 9.2%減少した。 【考察】 抗菌薬スペクトラムの広さで評価した DASC/DOT が Film Array® 導入後で減少していることから、Film Array®を導入したことにより、迅速に適切な抗菌薬への変更を医師に提案することが可能となり、抗菌薬適正使用に貢献していると考えられる。 【結語】 Film Array®の導入は、早期の適切な抗菌薬選択に寄与し、広域抗菌薬の不必要な使用を減らす手段の 1 つであることが示唆された。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	薬剤部 竹内 裕理佳

* 記入必須項目